ウイメンズブックス

第60号
1996年
8月26日発行

Women's Books

女性の本の情報誌・ウイメンズブック友の会会報

ウメインズブックストア
発行所　有限会社　松香堂書店
本　社　〒602京都市上京区下立売通西洞院西入る
土・日・祝日休み　TEL/FAX 075-441-6905
天満橋店　〒540大阪市中央区大手前1丁目3番49号
ドーンセンター内
水曜定休・祝日代休あり
TEL/FAX 06-910-8627
郵便 振替口座 01080-0-7950
（入会金800円　年会費個人2,200円　団体3,000円）

このリストの書籍をご希望の方は、同封の振替用紙の通信欄でお申し込み下さい。書籍代は送料共でお振り込みくださいますようお願い致します。
ご注文の本の定価の合計額に、下の表の送料を合わせてお送り下さい。なお、お電話でのご注文も受け付けています。

2,000円まで	400円
2,001円～4,000円まで	500円
4,001円～10,000円まで	600円
10,001円以上	700円

電話・ファックス・お手紙等でのご注文は、天満橋店にお申しつけ下さい。
本誌からの無断転職・コピーはお断りいたします。

ウイメンズブックスは、今号で60号を数えます。もう15年も出し続けてきたことになります。こんな小さな季刊誌ですが、会員の皆様のお陰で今日まで発行し続けてこられたことを感謝せずにはいられません。心からお礼を申し上げます。今後も出来る限り紙面を充実させるよう努めてまいります。どうか続けてご愛顧のほどよろしくお願い致します。

合わせてウイメンズブックストア天満橋店にもお運び頂ければ幸いです。９月からドーンセンター内の一階に移りますので、より便利にご利用頂けると存じます。お越しをお待ちしています。

60号を記念して下記のような特集を組みました。またご意見などお聞かせ頂ければ幸いです。

（ウイメンズブックストア松香堂　代表　中西　豊子）

６０号記念特集

――「ウイメンズブックス」編集部が選んだ――

新刊紹介（50～59号）の中で印象に残った本

女性論・評論

『近代家族の成立と終焉』

上野千鶴子　岩波書店　1994年3月　2200円

著者の分析力にいよいよ磨きがかかってきた。近代と家族の分析が、著者の一貫したフェミニズムの視点から、歴史社会学的、文学社会学的に、スリリングに展開される。ファミリーアイデンティティーの変容、梅棹家庭学の謎解き、江藤淳、斉藤茂男の著書にふれて語られる「母・妻」イメージの考察が圧巻。久方ぶりの時代史的、社会思想史的労作。　（51号）

『21世紀家族へ
－家族の戦後体制の見かた・超えかた』

落合恵美子　有斐閣　1994年4月　1648円

著者は家族の戦後体制を実にわかりやすく語りかけるように分析する。その特徴を、女性の主婦化（女性の社会進出ではない）、再生産平等主義（適齢期に結婚し、子どもが二人という画一主義）、人口学的移行期（日本的近代家族の人口転換）と見る。そして21世紀の家族は…？　答は読者自身に委ねられている。

（51号）

『オトメの身体－女の近代とセクシュアリティ』
川村邦光　紀伊國屋書店　1994年5月　1880円
本書を読んでいると「処女神話」も「身体感覚」も、歴史的に作られたものなのだと、改めて実感させられる。1920年前後の女性雑誌や月経帯の歴史をひもとき、近代という時代が女の身体感覚をいかに作り上げたかを展開する、興味深い女性論。（52号）

『生殖の政治学－フェミニズムとバースコントロール』
荻野美穂　山川出版社　1994年12月　2600円
人口問題、優生保護法にみられる優生思想など今もなお多くの課題を抱えている“生殖の政治学”。バースコントロールが今のように当り前になるまでにはサンガー始め多くの人々の闘いがあった。時代思潮とともに変化していく、性と避妊の歴史を追う。本書は研究書でありながら、一般の読者にも興味深く読める。（54号）

『専業主婦が消える』
末包房子　同友館　1994年11月　1500円
自ら準専業主婦という著書が書いた専業主婦批判の書。税金、年金、相続と専業主婦優遇の根拠を数字でわかりやすく説明。自身への無念のつぶやきもこめた一冊。税金や年金の改革と主婦自身の意識変革がセットになっている。（54号）

『女性論のフロンティア－平等から衡平へ』
竹中恵美子　創元社　1995年8月　2300円
equality（平等）からequity（衡平）への道を阻む生産と再生産（市場と家庭）の社会システム。女子労働論の第一人者として、その変革を示唆し続けてきた著者の講演・論文集。経済学の中に女性の視点を常に位置づけてきた著者の姿勢が貫ぬかれている。（57号）

メディア

『メディアに描かれる女性像
－新聞をめぐって　増補・反響編付』
メディアの中の性差別を考える会編
桂書房　1993年11月　2060円
メディアの性差別“表現”を問題にすることは、見えにくい“性差別”を考えること。「今まで自分が漠然と感じていた痛みは、これなんだ」との読者の声も。女性学講座のテキストにとてもいい。（50号）

『バックラッシュ－逆襲される女たち』
スーザン・ファルーディ
伊藤由紀子　加藤真樹子訳
新潮社　1994年4月　2000円
フェミニズムへの「バックラッシュ」とは、男社会からの反撃・逆襲のこと。本書は80年代アメリカの男性社会が、いかに“フェミニズムこそ女の敵だ”と宣伝し、巻き返しをはかったかを分析。情報がいかに男性社会優位に操作されているかを明確に批判している。残念なのは日本語版が全訳ではないこと。これも一つの「バックラッシュ」なのか？（52号）

性・セクシュアリティ

『男でもなく　女でもなく
－新時代のアンドロジナスたちへ』
蔦森　樹　勁草書房　1993年10月　2678円
著者にとって、この社会はジェンダーの鎖につながれた世界。その鎖は自らの身体にしみこみ、自らを縛っている。著者の願いはその鎖を断ち切り、男・女にこだわらず、周りや自分に言い訳せず生きられるようになりたいということ。本書で著者はジェンダーの鎖から受けた傷を癒し、自らを受け入れ、世界を受け入れられるようになるまでの自己史を語っている。（50号）

『純愛コンプレックス』
上村くにこ　大和書房　1993年9月　1300円
「男好きのフェミニスト」と称される上村くにこの最新エッセイ。抜群の比喩のうまさと軽妙な語り口から、著者の正直さが浮かび上がる。涙の河を渡ったあとの心の軽さを味わうような、絶妙のショート・ショート。おすすめの一冊。若者たちよ！恋をしろと呼びかける。（50号）

『アンチ・ヘテロセクシズム』
平野広朗　パンドラ発行　現代書館発売
1994年6月　2060円
ヘテロセクシズムとは「ヘテロ（異性愛）の男たちの欲望を満たすためだけにつくられてきた男優位の文化」のこと。著者は映画評や書評をまじえながら、読み手に性と愛のありようを問う。自らがゲイである視点から世の中を読み解き、ラディカルに、そしてしなやかに自他の変革を願う。カウンターカルチャー（対抗文化）を常に失わない著者の心意気がいい。（52号）

『セックス・ワーク－性産業に携わる女性たちの声』
フレデリック・デラコステ
プリシラ・アレキサンダー編
パンドラ監修・発行　現代書館発売
1993年11月　3950円
売春について語るときの困難さは何に起因するのか。本書は、からまった糸を解きほぐす作業を行っている。第Ⅰ部は売春婦として働く女性たち自身に原稿を依頼。

第Ⅱ部ではフェミニストにとって売春がなぜ難問なのか、売春婦を社会のスケープゴートに仕立てあげることの意味を考察。第Ⅲ部は、アメリカ、イギリス、オランダで売春問題に取り組む組織の声を紹介している。
（50号）

こころ・いやし

『親密さのダンス－身近な人間関係を変える』
H・G・レーナー　中釜洋子訳
誠信書房　1994年1月　2781円
身近で大切な人との関わりをダンスに例えるなら、上手に踊れないのは二人のステップがお互いに乱れているから。二人のステップの修正は、お互いの関係にとどまらず、いろいろな人間関係の見直しから始まっていく。本書は問題を乗り越えていった恋人、夫婦、親子など、事例をあげ、「人間関係とは」を説く、『怒りのダンス』に続くれレーナーの第二弾。　（51号）

『沈黙の壁を打ち砕く』
アリス・ミラー　山下公子訳
新曜社　1994年3月　1957円
子ども時代、親からの抑圧や暴力によって心に傷を受けなかった人はいないのではないか。ミラーはその事実を隠ぺいする精神分析と訣別し、「子どもを抑圧するのは大人が悪い」と言い切った。子どもにとって、親は常に権力者なのだ。エンドレスにくりかえされる児童虐待の鎖を断ち切れるか。　（52号）

『こんなときはノー！　といおう』
オラリー・ワッチャー文　ジェーン・アローン絵
北沢杏子　染嶋いずみ訳
アーニ出版　1995年5月　2200円
アメリカで出版された「性暴力をはねかえすための絵本」。不快な身体への接触から自分を守る自己決定権を、やさしく訴えかけている。小学校中・高学年向き。「ノー」をはっきり言えることこそ自己主張のはじまりだ。　（56号）

『女性のためのグループ・トレーニング－出会いと回復のレッスン』
河野貴代美　学陽書房　1995年12月　1800円
自己主張のトレーニング、ＣＲグループ、自助グループなど、グループワークの実際的な方法を著者の経験にもとづいて語る。グループを共生と癒し、成長の場とするのに必要なヒントが詰まっている。悩んでいるのは私一人ではない。女たちのグループネットワークこそ強い味方。　（58号）

からだ・出産

『自分でなおす冷え症』
田中美津　マガジンハウス　1995年5月　1200円
鍼灸師・田中美津が東洋医学で学んだことを元に教えてくれる、冷え症のなおし方。誰のものでもない自分のからだを、自分で「気持ちのいいからだ」にする。その基本になるヒントがいっぱい。冷え症で悩む女たちへのお助け本。でも、なおすのは私自身。　（57号）

『踊る妊婦』
福島直子　ベネッセ　1995年5月　1100円
明るい妊娠出産体験記。踊るような文章と若さあふれる言葉が楽しい。あけっぴろげの著者のイメージが、まるごと伝わってくる今風のエッセイ。出産は今や一大イベントなのだ。　（57号）

『ニンプ→サンプ→ハハハの日々』
大橋由香子　社会評論社　1995年11月　1700円
とらばーゆした途端、妊婦となった著者。次々に二人の男児の産婦となり、「母」ならぬハハハとなった数年間をリズミカルに書いた。押しつけの「母性」を蹴飛ばし、したたかな子育てをユーモラスに描く。母性をハハハと笑いとばして、おおらか。　（58号）

エッセイ

『ひとりで暮らすということ』
寿岳章子　海竜社　1995年2月　1500円
亡き母や父の思い出を抱きながら、著者は「幻の家族とともに生きている」という。ひとり暮らしをしっかりと生きる心意気を感じる、暖かくてユーモアの溢れるエッセイ集。シニアシングルは自立が基本。女の一人ぐらしはなかなかにステキ。　（55号）

『女たちの歌声／増田れい子の本②』
増田れい子　大月書店　1994年12月　1800円
一歩先を歩いてきた女の志を、若い女性たちに伝えたい－折々に記した辛口のエッセイをまとめたもの。変えるのは女という意志が伝わってくる。増田れい子の本①（大月書店　1800円）③（大月書店　2400円）ともに年輪を感じさせる名エッセー集。　（55号）

『レッド・ホット・ママ－いま、変わろうとする女たちへ』
コレット・ダウリング　落合恵子監修
徳間書店　1996年3月　1500円
「レッド・ホット・ママ」とは「元気はつらつと、熱く燃えている大人の女性」という意味。『シンデレラ

コンプレックス』から15年。著者は50代の女性に向けて、積極的に人生を生きようと呼びかけている。人生いつでも再発見の時。スタートはいつでも、チャンスはどこにもあると信じたい。（59号）

ドキュメント

『母子家庭にカンパイ！
－離婚・非婚を子どもとともに生きるあなたへ』
しんぐるまざあず・ふぉーらむ編著
現代書館　1994年2月　1648円

シングルマザーは、お金はないけれど気分はすっきり。離婚や非婚で子どもを育てるのは、しんどいけれどワクワクする暮らし。世の中の「ふつう」への「怒り」を共有し、お互いに癒し合うネットワーク・しんぐるまざあず・ふぉーらむの誕生とともに生まれた本。重い問題も軽々とおおらかに生きている女たちの姿勢がいい。（51号）

『ほんとうの自分を求めて－自尊心と愛の革命』
グロリア・スタイネム　道下匡子訳
中央公論社　1994年4月　2800円

女たちの自立を阻む壁は、不平等な社会にだけあるのではなく、女たちの内面世界にも存在するのでは？と著者はいう。女性一人ひとりが自らを“私ひとりにして尊い”と思う自尊心を得てこそ、初めてほんとうの意味での変革がはじまるのだから。（52号）

『越えられなかった海峡』
加納実紀代　時事通信社　1994年2月　2000円

女が空を飛ぶのは逸脱なのか。朝鮮人女性飛行士朴敬元は、戦前の日本と朝鮮のはざまで、飛ぶことへの自立と戦争への伏線を暗示しつつ墜落死した。時代背景を的確にとらえた視点と、読みやすい文体がいい。著者の10年に及ぶ資料収集と、持続する志が行間に込められた力作。（52号）

『フェアウェル・スピーチ－別れのあいさつ』
レイチェル・マカルパイン
冥王まさ子＋グループＥＮ訳
新水社　1994年6月　2884円

日本ではあまり知られていないが、ニュージーランドで100年前（1893年）世界で初めて女性が参政権を獲得した。その主力となって活動した女性たち、特に指導者ケイト、エイダの実生活、活動の仕方など、各々が自分を語る形式で、見事なノンフィクション・ノベルになっている。翻訳文のうまさが光っている。あまり知られていない分野に光があてられた意味は大きい。（52号）

『女たちが語る阪神大震災』
ウィメンズネット・こうべ編
木馬書館　1996年1月　1200円

マスコミ報道に表れない被災した女たちの思い、感情、現実を表現した本。都合よく「復興」を報道するマスコミからは伝わらない生身の声が詰まっている。女たちの声を記録しておくことの意味は大きい。（58号）

高齢と女性

『私の目を見て
－レズビアンが語るエイジズム（高齢者差別）』
バーバラ・マクドナルド　シンシア・リッチ
原柳舎発行　松香堂発売　1994年7月　1800円

かつて、「家」の中で「主人」に押しつけられた娘役割や母役割をきらって、家を飛び出した女たち。その女たちの間で高齢女性が「おばあさん役割」を押しつけられているとしたら…。著者は高齢のレズビアン。“「おばあさん」という名札を私につける前に、まず私の目を見て”と訴え、高齢者差別を鋭くつく。（53号）

『老いの泉／上・下』
ベティ・フリーダン　山本博子　寺澤恵美子訳
西村書店　1995年9月　各2500円

かつて「女らしさの神話」から解き放たれようと呼びかけたフリーダンは、この本で「老いの神話」を打ち壊そうと説いている。「老い＝衰えること」というイメージへの実証的反論である。アメリカで爆発的なヒットを記録した。年齢は価値といえる老いを生きたい。（57号）

〔ビデオのご案内〕

『それでも生きた
－日本軍の性奴隷にされた女性たち』
1995年・朝鮮人従軍慰安婦を考える会製作　45分
シナリオ解説書・上映権付　20000円

『今から… 世代を継いで生きる在日朝鮮人女性たち』
1996年・ミリネ（朝鮮人従軍慰安婦問題を考える会）製作　40分
シナリオ・上映権付　10000円

『離婚を選んだ女たち　PartⅡ SEX』
1996年　ビデオ工房AKAME製作　25分
一般 8240円　上映権込　16480円

最　新　刊　情　報

[女　性　学]

『生命とフェミニズム－言語　ジェンダー　科学』
エヴリン・F. ケラー　広井良典訳
勁草書房　1996年6月　2369円
中立・客観的とみなされてきた科学の分野にもジェンダーバイアスがかかっている。著者は、ジェンダー概念を手がかりに現代科学への生命観の見直し作業を続ける。

『ジェンダーから世界を読む』
関啓子　木本喜美子
明石書店　1996年4月　2678円
欧米中心主義に陥りがちな「ジェンダー」という視角を西欧とは異なる世界、国家、政治体制、地域、異人種、異民族... などを通して点検する。ジェンダーの視点で、オリエンタリズム、社会主義、などを読みといている。

『女性・怒りが開く未来』
メアリー・ヴァレンティス／アン・ディヴェイン
和波雅子訳
現代書館　1996年5月　3090円
「－あらゆる年代の女性が、怒りのエネルギーとパワーの世界に、今まさに分け入りつつある。－」という。小説、映画、世界的なゴシップなどを例に、「女性の怒り」を研究、考察している。

『女性の就業と富の分配－家計の経済学』
松浦克己　滋野由紀子
日本評論　1996年3月　4120円
家計の経済行動が女性の就業ということによってどの様に変化するか、また富の分配がどう変わるのかに注目した経済学の専門書。

『女性学の視座』
阪南大学女性学研究会編
ナカニシヤ出版　1996年3月　2600円
阪南大学の女性学講座を契機にして、同大学の研究者たちの論文をまとめた。「クリステヴァとフェミニズム」国領範子ほか。

『女性が学ぶ社会心理学』
宗方比佐子　佐野幸子　金井篤子編
福村出版　1996年6月　2369円
社会心理学を初めて学ぼうとする女性のための入門書。社会心理学が実に解りやすく、とりつきやすいよう様々な工夫がしてある。はっきりとした女性学の視点で解説された初めての社会心理学のテキスト。

『地球のおんなたち－女から女へ、女を語る』
大阪外国語大学女性研究者ネットワーク
嵯峨野書院　1996年5月　2266円
大阪外国語大学の総合講座「女性学」の教科書として編まれた。各女性研究者のフィールド、世界の女たちの今のありようをアップ・トゥ・デイトに伝える。専門領域を越えたネットワークの試みが面白い。

『日本のフェミニズム』
島田燁子
北樹出版　1996年4月　2000円
晶子、らいてう、菊栄、かの子などの軌跡をたどりながら、日本のフェミニズムを追う。最終章に現状を検証するという項目を入れて、現在の女性問題にも言及している。女性学テキストにいい。

[働　く]

『介護休業制度と両立支援事業の解説』
労働省婦人局編
㈶21世紀職業財団　1996年3月　1700円
介護休業法が育児休業法の－部改定という形式をとりながらも－応の法制化がなされた。義務化されるのは3年後だが、それまでに、介護休業制度導入のための奨励金等、様々な援助がある。介護休業制度の解説と共にそういった制度を詳しく解説している。

『こんな資格もありますよ
－資格の取り方・生かし方』
企画集団Ｍｓ．編
リバティ書房　1996年5月　1400円
中日新聞生活けいざい面で連載された“資格に挑む”に追加取材をして、まとめたもの。資格をとった人の体験談と共に各々の資格を紹介。

『女性のための「資格術」
－資格で人生を変えた20人の「自分物語」』
福沢恵子
実務教育出版　1996年6月　1200円
資格をどう取るかも大切だが、取ってからどう生かすかももっと大切。本書では20人の資格にまつわるライ

フヒストリーを紹介しており、資格を生かしたその後の生活をイメージするのに役立つ。もちろん資格取得のためのデータ付き。

『働く女たちの裁判』
－募集・採用からセクシャル・ハラスメントまで－
大脇雅子　中野麻美　林陽子
学陽書房　1996年7月　2800円
この20年余、女性労働に関する裁判で、女性たちが勝ちとってきた判例の数々。ときには原告の敗訴に終ることがあったが、それらの裁判もまた、女性差別の存在をアピール、後に続く人に勇気を与える。募集からセクハラまで各項目にわけた判例解説集。

『働く女性のお助け本－職場のトラブル対処術』
金子雅臣　龍井葉二
緑風出版　1996年6月　1751円
就職、待遇差別、出産、育児、介護休業からセクハラ、お茶くみなどなど、職場についてのあらゆるトラブル、会社の言い分にどう対処すればよいか、きっちりと教えてくれる便利な一冊。

『母親の就労と子どもの発達－縦断的研究』
エイデル・E・ゴットフライド
アレン・W・ゴットフライド
佐々木保行監訳
ブレーン出版　1996年4月　4900円
母親が就労することによって、子供の発達や、家庭環境の変化がどうなっていくのか、乳幼児から青年期に至る、各段階の子どもへの影響を実証的に研究分析した専門書。

［法　　律］

『家族をめぐる法の常識』
二宮周平
講談社現代新書　1996年4月　650円
解りやすいケースを例に、不倫、離婚、介護、相続そして老いや死にまつわる法を解説。家族法は性別役割分業の枠組みの中で、妻の地位を保護し、反対に男性には家族の扶養を義務づけてきた。そのためこの規範からハズれる家族を法は守らない。著者はこれまでの家族観を改め個を大切にする法をと提唱している。

『女と法とジェンダー』
上田純子ほか
成文堂　1996年3月　2266円
女性労働者の保護を必要とした社会背景、そのための立法過程と内容などを解説した「働く女性と法」、「女性と家族誌」。「生活空間とジェンダー」では新聞やテレビドラマとジェンダーにもふれて問題点を探っている。

［家族・家庭］

『愛を求める家族たち』
ジョーン・ハーヴェイ　加藤恭子
ジャパンタイムズ　1996年6月　1600円
アメリカンドリームの崩壊、ベトナム戦争の傷跡、崩れゆく男性原理などと共に、さまざまな家庭の葛藤が生まれるアメリカ。セラピーのケーススタディーから複雑にからみあった糸がほぐされていくプロセスが興味深い。

『生まれ変わるヨーロッパの家族』
シャーウィン裕子
インパクト出版会　発売イザラ書房
1996年6月　2060円
欧米での家族の現在を伝えるドキュメント。離婚、非婚、ゲイ、レズビアンなど、家族の変貌は、どこの国でも著しい。家族観も、家族機能も変わらざるを得まい。

『家族手帖』
「家族支援問題」研究会／藤原誠
講談社出版サービスセンター
1996年4月　1400円
男たちが変わろうとしている。変わらざるをえない現実がある。日常性の中に自ら入ってきた８人の男たちの「家族力」への試み。だけど、文中、主人や奥さん、家族愛という言葉が多用されるのはいただけない。

『子育てが終わった夫婦のための本』
円より子
大和書房　1996年6月　1300円
男たちからの離婚相談が増えている。一緒にいても愛したくないという夫と妻。長い人生、子育てが終わった後、もう１つの愛が必要なのか。別れて１人になって、もう１度女と男が向き合うことができるかどうかを問いかける本。

［こころ・癒し］

『拒食と過食－心の問題へのアプローチ』
青木紀久代
サイエンス社　1996年5月　1236円
思春期に直面する心の問題の一つ、拒食と過食は、親も子も共に苦しみ、解決の糸口をみつけることが難しい。臨床例と理論の両面から、糸を解きほぐす試みとケアについて研究者として語る。

『こころという名の贈り物
－続・自閉症だったわたしへ』
ドナ・ウィリアムズ　河野万里子訳
新潮社　1996年3月　2000円
27歳で自閉症であることにたどりついた著者が、その後の軌跡をたどる。苦しいことを自覚し、自分の身体感覚、他者とのコミュニケーションを回復していく感動的な自伝。

『才能ある子のドラマ－真の自己を求めて』
アリス・ミラー　山下公子訳
新曜社　1996年5月　1854円
1979年に出た初版本の新版第二版。冒頭の導入部が全面削除され、あとがきが追加されている。1988年精神分析と訣別した著者は、乳幼児期の子どもにとって重要な意味を持つ人（母とは限らないが）の存在を強調する。子どもの時の抑圧が後に、トラウマ（精神的外傷）とならないために。

『狭き門を通って－「神」からの離脱』
カレン・アームストロング　たかもりゆか訳
柏書房　1996年4月　2300円
著者が修道女として過ごした7年間の自己と「神」との格闘の日々を綴ったもうひとつの尼僧物語。遂に「神」を見つけることが出来なかった著者の「人生の究極的意味」の探究は続く。

『母は娘がわからない－子離れのレッスン』
イヴリン・S・バソフ　村本邦子　山口知子訳
創元社　1996年6月　1800円
中年期になる母と、思春期の娘の適切な「愛の距離」をとるのは難しい。娘の自立やセクシャリティは、ときには母を混乱させる。カウンセラーとして経験豊かな著者のことばには、説得力がある。

『変光星－ある自閉症者の少女期の回想』
森口奈緒美
飛鳥新社　1996年2月　1700円
知的で、極度に内向的な自閉症の女性が、小・中学生時代「いじめ」にあった体験や、その独特な精神世界を綴ったもの。自閉症に対する理解の必要性を痛感する。

『わたしは拒食症だった』
ファビオラ・ド・クレール　泉典子訳
草思社　1996年2月　1400円
13歳から20年ものあいだ拒食症に苦しんだ著者。常に「いい子」を演じるうちに自分を見失う。一日の大半を食べたり、吐いたりという悲惨な日々から立ち直るまでを綴った手記。

［か　ら　だ］

『いいお産、みつけた』
「いいお産、みつけた」編集委員会
農文協　1996年3月　1600円
今、日本で本当にいいお産を選べるのだろうか。分娩室のこと、お産に関わる医療機器のことなど、お産をする女性たちは、殆ど知らないままだという。いいお産をするための親切なガイドブック。

『いい女のホルモンバランス』
秋山尚美
ぎょうせい　1996年6月　1800円
女性ホルモンと共に歩む女性の一生。よきにつけ悪しきにつけ体調と深くかかわっているホルモン。男性医師が書いた女性のからだの本だが、更年期以後のからだにも、頁をさいている。

『子宮筋腫－専門のお医者さんが語るQ＆A』
藤井信吾　折井文香
保健同人社　1996年6月　1250円
30代から50代の女性に多かった子宮筋腫が最近では若い女性にも発見される例が増えているという。専門医による解説。Q＆Aで、疑問に答える。

『女性のための医学　心とからだの悩みに答えます』
海原純子監修
新星出版　1996年6月　1400円
女性の病気、妊娠、出産に関する心配に答えてくれる本。婦人科自己チェック、からだの不調に耳をかたむけて、婦人科とじょうずにつきあいたいなど。

『働くわたしのマタニティブック』
たけながかずこ
青樹社　らいふあっぷ文庫　1996年5月　690円
仕事と出産を両立したい人のために、妊娠時から産休あけの会社復帰まで全てをアドバイス。

『女性のための心とからだ　カウンセリングブック』
池下育子
新星出版社　1996年5月15日　1200円
女の心とからだの様々な症状について、Q＆Aで答えていく。女性の知っておきたい常識。

［子　育　て］

『いじめられっ子も親のせい!?
－いじめのシグナルに気づくのは親の責任－』
田中喜美子

主婦の友社　1996年5月　1400円
「イジメ」は何故起るのかを問うている。モノの豊かさ一辺倒の社会の価値観、子どもをスポイルする間違った乳幼児の子育て法、性別分業のヒズミ等、「イジメ」の根は深いという。親たちに、親となる人に是非読んでほしい一冊。

『子連れ女のセカンド・ラブは、トラに喰われるよりむずかしい
－デンマークに住むシングルマザーの生活と意見』
グードルン・ビネバレ
ビネバル出版　1996年4月　1000円
デンマークのシングル・マザーの生活ぶり。シングルマザーはデンマークでも経済的弱者。でも社会サービスが充分だから、子育てと働くことが両立する。著者の講演をブックレットにしたもの。

『非婚の母（シングルマザー）志願』
水上洋子
角川書店　1996年6月　1200円
結婚の枠の外で、女性が堂々と産むことができる社会をという主張が貫ぬかれている。婚外子差別の訴訟を起している女性や、非婚で子育てをしている女性との対談、行政とのつきあい方、困ったときの相談所のガイドなどもついている。

『福島瑞穂の落第子育てノート』
福島瑞穂
主婦の友社　1996年7月　1300円
弁護士福島瑞穂の子育て記。忙しい仕事をもちながら子育て中の人におすすめ。元気がでる。結婚届けを出さないパートナーとの間に子どもが生まれて…

［セクシュアリティ］

『アメリカのゲイ社会を行く』
エドマンド・ホワイト　柿沼瑛子訳
勁草書房　1996年6年　4120円
アメリカ全土を特徴的なエリアに分け、地域ごとのゲイ社会の生態をルポ。エイズが広がる前のアメリカにおけるゲイ・カルチュアを生々しく描いている。

『ジェンダーとセクシュアリティ
－ワークブック＜性＞と＜生＞を考える』
石元清英　金谷千慧子他
嵯峨野書院　1996年7月　1957円
文学と性、同性愛、障害者の性、性の商品化、HIV／AIDS、性教育などについて、各論者が執筆し、ワーク形式で設問を出すテキスト。

『セクシュアリティ』
ジェフリー・ウィークス　上野千鶴子監訳
河出書房新社　1996年4月　2900円
現在「セクシュアリティの社会学」の第一人者といわれるジェフリー・ウィークスの初の邦訳書。セクシュアリティ研究の中で、歴史社会的な理論、その問題点、実践的な課題などが一般読者にも伝わるよう書かれている。上野千鶴子の序文、親切な訳注がついている。

［表　現］

『映画をつくった女たち』
松本侑壬子
シネマハウス　発売星雲社　1996年5月　2800円
女性の監督第１号（アリス・ギー）から、100周年、世界中で女性がどんな映画を作ってきたか。一堂に紹介している。

『きらめいて生きる明治の女性たち　笹本恒子写真集』
清流出版　1996年5月　3000円
日本初の女性フォトジャーナリストが、活写した明治生まれの女性たち。現在もなお、第一線で闊達に生きる姿を捉えている。感動的な写真集。

［小説・エッセイ］

『あたしの中の…』
新井素子
集英社　1996年5月　1400円
表題作は新井素子が16歳で書いて、ＳＦ新人賞を獲得したデビュー作。千編の中から選ばれたというＳＦの名作。今回、他の３編と共に装丁を新たに出版された。

『恋を追う女－小説マリー・ローランサン』
山崎洋子
集英社　1996年5月　1800円
この世だって夢のようなもの。次々と移り変っていく。アポリネールほか、数々の恋愛遍歴を歩いたマリー・ローランサンの伝記風小説。ミラボー橋のリフレーン－月日は流れ、わたしは残る－のような人生。

『シズコズ・ドーター』
キョウコ・モリ　池田真紀子訳
青山出版社　1996年5月　1700円
美しい花に彩られた神戸を背景に多感な少女の心の闇が輝きへ変わっていく日々を描いている。20才でアメリカに渡った著者はこの作品を英語で書いて、1993年ニューヨーク・タイムス・ベストブック賞他を受賞した。

『スニーカーズ』

落合恵子

講談社　1996年6月　1200円

全共闘世代がもう50代、彼等のあの日、あの時、そして彼等の現在。切れ味のいい都会派小説。

『ブルースをワイルドに　上・下』

エリカ・ジョング　柳瀬尚紀訳

文藝春秋（文春文庫）　1996年6月　720円

リーラ・サンド44歳、画家、子供が二人、愛人が一人、ニューヨークにアトリエ、すべてを求め手にいれた女なのに今アルコールに溺れる毎日。大人の女の辛口ラブストーリー。ポルノチックな小説でありながら知的な読み物である。

『わが母　悪魔学』

キャッシー・アッカー　渡辺佐智江訳

白水社　1996年4月　2600円

ハードロックのようなアメリカン小説。母のこと父のこと、幼年期から自己発見の旅へ。一人称で自分史を語っているかと思えば、その一人称の性が変わる、目まぐるしくパワフルな自伝的小説。

『自分にごほうび』

落合恵子

大和書房　1996年5月　1400円

著者の優しさが、じかに伝わってくる最新エッセイ集。

『罪深い姫のおとぎ話』

松本侑壬子

角川書店　1996年6月　1500円

グリム・アンデルセンの童話には、強烈な女性差別があることはよく指摘されるが、この本では原典の残虐性や性的な設定はそのままに、パロディ化した。おとぎ話の中の真意を炙り出すことに成功している。

［ドキュメント］

『女性科学者21世紀へのメッセージ』

湯浅明　猿橋勝子

ドメス出版　1996年5月　1957円

女性科学者の力量が正当に評価され、科学の発展に貢献できるようにしたいと設立された「女性科学者に明るい未来をの会」が創立15周年を迎えた。その記念出版。女性研究者たちの経験や研究生活を紹介。

『中絶－生命をどう考えるか』

ロジャー・ローゼンブラット　くぼたのぞみ訳

晶文社　1996年6月　2200円

「生まれる権利」か「生まない権利」か、中絶が殺人か、法規制か、人権侵害か。アメリカ大統領選の鍵になった中絶論争を追う。第一線のジャーナリストである著者が中絶の歴史も辿りながら、現在の生命倫理を問う力のこもったルポルタージュである。

『ジャワで抑留されたオランダ人女性の記録』

（教科書に書かれなかった戦争　Part23）

ネル・ファン・デ・グラーフ

渡瀬勝　内海愛子訳

梨の木舎　1996年3月　2060円

現在のインドネシアで日本軍の捕虜として収容所生活を送った体験を中心に、女や子どもたちの生活や苦しみなどを伝えている。オランダの人々の日本に対する目は今も厳しいが、日本人にこうした事実を知らない人が多いのでは。

『ナチズムと強制売春

－強制収容所特別棟の女性たち』

リリスタ・パウル　イエミン恵子　池永記代美他訳

明石書店　1996年5月　2060円

ナチズムの歴史的事実が明らかにされる中、ナチの強制収容所内にあった「売春宿」のことは語られることがなかった。この本で初めて明らかになったが、囚人の女性を強制的に従事させたという。戦時下の性暴力の根は深い。

［女　性　史］

『処女墓（おとめづか）伝説歌考－複数の夫をもった美女の悲劇－』

関口裕子編

吉川弘文館　1996年5月　3296円

万葉集処女墓伝説歌の中に見られる女性の多夫性に関する変化を考察する。ヒロインの人格表記を丹念に調べあげ、そこから明らかになったのは？

『女と男の時空　全六巻

－Ⅱおんなとおとこの誕生／古代から中世へ』

伊藤聖子　河野信子ほか

藤原書店　1996年5月　7004円

王朝文学の女性　津島祐子

合戦絵の中の女性像－「性」を抑された身体　池田忍

中世前期における女性の財産権　田端恭子　　ほか

『女と男の時空　全六巻　－Ⅵ　溶解する女と男－

21世紀の時代へ向けて／現代』

山下悦子　河野信子ほか

藤原書店　1996年7月　8858円

ウーマンリブと生命倫理　森岡正博

戦後買売春の歴史　山下悦子
放送の女性史　小玉美意子　ほか

『「女の歴史」を批判する』
G・デュビィ＋M・ペロー編　小倉和子訳
藤原書店　1996年5月　2987円
「女の歴史」全３巻完結後のシンポジウムの記録。各時代を専門領域とする歴史家たちによる建設的な批判が展開されている。なぜフランスでは婦人参政権の獲得が遅れたか、夫婦間の政治的不和は一種の姦通であるとするカトリシズムへの批判は興味深い。

『昭和の女性　１日１史』
月守晋
岩波書店　1996年6月　1100円
昭和になってから起った女性に関する事件や快挙、風俗等、日毎に記している。日で分ける意味は余りないとは思うが、一覧してみると随分いろんなことがあるものだと感心する。

『全共闘からリブへ』
統後史ノート戦後編⑧最終号　68.1～75.12
女たちの現在を問う会編
インパクト出版会　1996年7月　3090円
座談会「東大闘争からリブ、そして女性学、フェミニズム」秋山洋子　池田祥子　井上輝子
「大学闘争とわたし」・「女たちの全共闘運動」
『女・エロス』創刊メンバー座談会「あのエロスにみちた日々よ！」・「リブセンをたぐり寄せてみる」ほか

『聖なる女－斉宮・女神・中将姫』
田中貴子
人文書院　1996年4月　2266円
『＜悪女＞論』（紀伊國屋書店）を書いた著者が、「聖女」もまた、つくり出された価値にもとずいているという。中将姫・斉宮などを例に聖性が付与される過程を明らかにしていく。

『歴史に人権を刻んだ女たち』
米田佐代子＋『福祉のひろば』編集部編
かもがわ出版　1996年6月　1900円
女性解放運動、思想、社会事業などで活躍した日本、欧米、アジアの女性27人の短い評伝をまとめたもの。岸田俊子、管野すが、山川菊枝などのほか、宋慶齢、オランプ・ド・グージュなどが紹介されている。

［自伝・評伝］

『お葉というモデルがいた
－夢二、晴雨、武二が描いた女』
金森敦子
晶文社　1996年5月　2300円
竹久夢二の描く女性は、か細く弱々しい。しかし夢二が愛し続けたモデル「お葉」の実像は？読みごたえのある女性評伝になっている。

『五十が怖い　上・下』
エリカ・ジョング　亀井よし子訳
小学館　1996年7月　各1800円
『飛ぶのが怖い』から20年、アメリカの文化・価値観が、はげしく揺れた時代を生きたジョングの愛とセクシュアリティ、セックス、結婚、そして加齢を、赤裸々に綴った。著者自身最高の自信作という。

『住井すゑ　ペンの生涯』
増田れい子
労働旬報社　1996年5月　800円
増田れい子が、母、住井すゑを語る。94歳の現在も＜人間の平等＞をテーマに書きつづけている住井すゑの力強い信念と日常が語られている。『わが生涯』（岩波書店）も合わせてお薦め。

『百歳の幸福論』
加藤シヅエ
大和書房　1996年5月　1500円
満99歳を過ぎた著者が、その長い人生を振り返る。今も、ほんとうに幸せだという著者。17歳で男爵夫人になり、アメリカへ渡って、サンガー夫人と出会い、その後国会議員として大活躍。波乱の20世紀を生き抜いた力強い女性に学ぶところは多い。

［女性と高齢］

『介護保険？家族保険！
－一人ひとりの生き方と生涯保障』
大脇雅子　神尾真知子ほか
法政出版　1996年4月　1000円
介護保険の問題点や、育児や介護の社会化を提言する。前途はきびしいが生涯保障をみすえた社会保障をと提案している。

『男も女も今が変わりどき－人生の午後へ』
沖藤典子
労働旬報社　1996年3月　1600円
高齢社会をのりきるには、働く人を支える介護システムを早く整備することが急務だと熱っぽく訴える。著者の説には説得力がある。

『どこでどう老いるか－医療と介護の現場から』
木村　栄
講談社　1996年3月　650円
高齢になったとき安心して入りたい病院や老健施設、特別養護老人ホームなどの実状をレポート。「自分が入りたいな」と思える施設を詳しく紹介している。

［男性問題］

『「男らしさ」から「自分らしさ」へ』
メンズセンター編
かもがわ出版　1996年6月　550円
日本に初めて開設されたメンズセンターのメンバーが書いた。社会の要求する「男らしくあれ」というメッセージに、異和感をもつ男たちの脱男らしさの弁。

［雑　　誌］

『優生保護法と自己決定権』インパクションNo.97
インパクト出版会　1996年6月　1200円
座談会中絶の権利とテクノロジー
－柘植あづみ、加藤秀一、大橋由香子
女性の自己決定を支える新しい法律を－芦野由利子
優生思想のジェネアロジー－山崎カヲル　ほか
優生保護法、堕胎罪をめぐる年表や最近の要望書も資料として収録。

『女性施設ジャーナル　2』
㈶横浜市女性協会
学陽書房　1996年5月　2100円
「女性施設の情報機能とは」を特集。女性センター情報図書室などの活動や、問題点、今後への展望を伝えている。震災後、大活躍した兵庫県女性センターの報告や、上野千鶴子の女性政策に対する5つの提言など、自治体の方々にはおすすめの内容満載である。

『市政研究－男女が共に参画する社会を』112号
大阪市政調査会　1996年7月　850円
「ジェンダーと女性行政－現状と課題」藤枝澪子ほか、女性行政についての力の入った論考が収録されている。

［資　　料］

『女たちの便利帳　1』
ジョジョ企画
ジョジョ発売　教育史料出版会
1996年7月　2884円
全国の女性の活動の情報を集めた正に便利な本。（本号13P参照）。

『女性情報年鑑　1996年版』
パドウイメンズオフイス　1996年7月　3800円
この1年の情報満載。

『女性・婦人問題の本全情報　1945-1994』
日外アソシエーツ　1996年4月　28000円

『女性の現状と施策　平成7年版
－新国内行動計画に関する報告書（第5回）』
総理府
大蔵省印刷局　1996年3月　2900円

『1996年度版　統計にみる女性の現状』
婦人教育研究会
垣内出版　1996年5月　1854円

『平成8年版　厚生白書　家族と社会保障
－家族の社会的支援のために』
厚生省
ぎょうせい　1996年5月　2400円

『資料集成　現代日本女性の主体形成　全九巻』
千野陽一
ドメス出版　1996年5月　各巻定価15450円
セット価133900円
第1巻　激動の10年（1940年代）
第2巻　逆コースに直面して（1950年代前期）
第3巻　発言しはじめた女性たち（1950年代後期）
第4巻　婦人政策本格化のなかで（1960年代前期）
第5巻　高度成長のひずみに抗して（1960年代後期）
第6巻　生活に根ざす運動の広まり（1970年代前期）
第7巻　「国連婦人の10年」に向けて（1970年代後期）
第8巻　西暦2000年を視座に（1980年代）
第9巻　年表　索引

『日本女性運動資料集成　第1巻－思想・政治Ⅰ』
第6回配本　不二出版　1996年5月　15000円
女性解放思想の展開と婦人参政権運動。青踏社、矯風会、平民社・赤瀾会、婦選獲得同盟など。

『叢書女性論』　大空社　1996年6月

23	伊藤野枝全集	14000円
24	恋愛創生	12000円
25	近代日本婦人文芸女流作家群像	7000円
26	婦人解放論	6500円
27	近代日本女権史	6500円
28	新日本の建設と婦人	7000円
29	結婚社会学	9000円
30	女性相談	9000円
31	女性問題の批判と解決	9000円
32	明日の女性教育	8000円
33	明日に生きる女性	7000円

ウイメンズブックストア天満橋店
１Ｆロビーに装い新たにオープン
記念フェア＝女性の書いた推理小説＝
９月５日㈭～30日㈪

いま、女性作家による女性主体の推理小説が面白い！　愉しめます。ぜひご一読下さい。「スケジュールノートブック'96」（ジョジョ企画）に紹介された推理小説を全部揃えました。（内容紹介は、上記「スケジュールノートブック'96」（57号12P参照）をご覧下さい。）

わたしの出会った本

渡辺　淳一

君も雛罌粟　われも雛罌粟
与謝野鉄幹・晶子夫妻の生涯

文藝春秋

菊地寿奈美

読もうか、読むまいか、躊躇した。宣伝文句がいかにも時代に媚びているように思えたから。が、これは作者の責ではない。晶子の評伝を人気作家が書いた。やっぱりこれは、はずせない。

多くの資料に基づき、読ませる構成である。上下巻約800ページを、２、３回のブレスで泳ぎきるという読後感。晶子、寛（鉄幹）のみならず、周囲の人物像も立体的に編み込まれ、二人の生きた時間を彩っている。

読ませる構成、と評したが、場面がビジュアル化し易いのも特徴だ。ちょうど長編テレビドラマに釘づけになっているようなかんじ。しかし、特に性描写に関しては、『余計なお世話』的な表現が多々みられる。小説では、現実が虚構に併合された枠組（ありそうでなさそうな世界）の中で、美しく語られるこういう部分が、ノンフィクションの作品では、わずらわしさを感じさせる。おそらく、作者と女性との生理のズレがこの種の軋みを生むのであろう。また、「（異性に対し）登美子は、まったく免疫をもたぬ、純白の状態であった。」というような陳腐な女性観も、読手の感情の流れをとどこおらせる。

ただし、下巻、つまり晶子が30才台、寛30才台後半以降になると、この種のわずらわしさは格段の差で減少する。また、作者の寛の性格描写はいささかイジワルな言い回しが多い様にも思われるが、晩年の寛に対しては筆が優しい。寛のカドがとれたのか、寛を描く筆のカドがとれたのか。晶子の台詞や心理描写も無駄が少なくなっている。

あとがきで作者はこう述べている。当初、石川啄木を書く予定であったが、彼が早逝であり、作者の人間理解や洞察より浅いと思われる人物を何年もかけて書く気にはならなかったと。

この様な事情を経た作品であることを考えると、著者は華々しく光のあてられることの多い「明星」創生期よりも、晶子、寛の30才代以降の人生に豊かな光を当てたという意味で、ユニークな仕事をしたと強調すべきであろうか。

あなたの情報・わたしの情報

国際シンポジウム

男尊女尊の国からオンブッドを迎えて

三井まり子

オンブズマン（行政監査官）発祥の地、北欧。

なかでもノルウェーには6種類のオンブズマンがいます。クオータ制の推進や性差別の撤廃に働くのが「男女平等オンブッド」です。現職の男女平等オンブッドであるアンネ・リーセ・リーエルさんをお招きすることになりました。北欧民主主義の精華「オンブッド」の講演と討論にご参加下さい（通訳付）。

【大　阪】
時）9月28日（土）1時～4時
所）ドーンセンター（大阪府立女性総合センター）
プログラム）1　講演「男尊女尊の国ノルウェーとオンブッド」
2　討論会　「日本にもオンブッドを！」
石田法子（弁護士）
野村孜子（知る権利ネットワーク）
平松　毅（関西学院大教授）
福田雅子（ジャーナリスト）

【東　京】
時）9月29日（日）1時～4時
所）東京ウィメンズプラザ（渋谷・国連大学隣）
プログラム）1　講演「男尊女尊の国ノルウェーとオンブッド」
2　討論会「男女平等にクオータ制は是か否か？」
井上輝子（和光大教授）
佐藤欣子（弁護士、㈱資生堂監査役）
田尻研治（男も女も育児時間を！連絡会世話人）
名取はにわ（総理府男女共同参画室室長）

【主　催】ノルウェー男女平等オンブッド・シンポジウム実行委員会。駐日ノルウェー王国大使館、ノルウェー王国子ども家族省
【後　援】外務省
【協　賛】全国フェミニスト議員連盟、世界女性会議ネットワーク関西など
【申込先】
540 大阪市中央区谷町1丁目7番4号
M.F天満橋ビル6F
オフィス・オルタナティブ　森屋裕子
TEL 06－945－5163　FAX 06－920－8167
105 東京都港区新橋2-20-15
新橋駅前ビル1号館913
エイ・エフ・サービス　阿部功子
TEL／FAX 03－3571－9838
葉書かFAXにて、東京か大阪かを書き上記に参加を申込んで下さい

最新刊「女たちの便利帳　1」

A5判サイズ　512ページ
定価　2884円（本体2800円＋税84円）
編集：女性の情報をひろげるジョジョ企画
発行：㈲ジョジョ
発売：㈱教育史料出版会

女性の活動情報を満載した全国版の情報誌。各地で活躍する女性の自己紹介が1500件載っています。

女性の活動グループや市民運動はもちろん、無農薬の八百屋／農園／石けん工場／不動産業／建築技術者／企画・デザイン会社／高齢者介護補助の会社／出版社／旅行社…各ページに女性の活力があふれています。

巻末の索引も充実。医療事故や性暴力に関するホットラインなど50項目の索引から知りたい情報がすぐに引けます。320のわかりやすい地図付き。1990年に創刊、4冊目の発行。レイアウトも装幀も一新しました。女性の活動「イエローページ」として活用してください。

●女たちの活動の「現在」を伝えるただひとつの情報誌［全国版］!!　　（松香堂でも扱っています）

『はじめて出会う女性史』

鈴木陽子

かって日本がアメリカと戦ったことを知らない学生もいるそうな。そういう相手に「歴史を知ってほしいなあ」と望むのは無謀かな？だいたい女性史は「暗い、ダサい」。辛い労働、厳しい差別－そんな時代の連続じゃあ嫌になる－っていう気持ちはむしろ当然かなと思う。でもどんな時代でも、人はその中で最良の生き方を探す。そんな暗いもんじゃないよ。フツーの人々の生活の輝きを知り、元気になれるような日本史が語れないかと挑戦したのがこの本です。

この本では＜女性の歴史＞ではなく、＜女性の姿を通して見た日本の通史＞を語ったつもり。日本史を知らなくても、ザッと読んで歴史の流れの大本をつかめるように工夫した。「専門用語を使わない」と決めたのが一番厳しかった。でもとっつきやすくて、しかも最新情報を入れた、中身の濃い本ができたんじゃないか－とこれは自画自賛。「はじめて」読んだ感想を聞かせて！（59号P5参照）

（はるか書房　星雲社発売　1,854円）
（松香堂でも扱っています）

ミニコミ情報

（松香堂で扱っているミニコミの最新情報です）

「**れ組通信No.109**－レズビアンに関する10の質問／ほか」　れ組スタジオ東京　1996年4月　400円

「**れ組通信No.110**－〝からだ〟のこと／ほか」　1996年5月　400円

「**れ組通信No.111**－ONE STEP／ほか」　1996年6月　400円

「**プロシューム5月号**－特集 公的介護保険まるわかり／ほか」　大阪よどがわ市民生協　1996年5月　330円

「**プロシューム6月号**－特集『イライラしちゃう、あせっちゃう、ひとりぼっちの子育て』共同子育てのコツは？／ほか」　1996年6月　330円

「**プロシューム7月号**－特集『ミドル世代のチャレンジ』長田区でがんばる女性たち／ほか」　1996年6月　330円

「**Voice 第72号**－婚外子差別撤廃の声を国会へ！／ほか」　住民票続柄裁判交流会　1996年5月　150円

「**月刊むすぶNo.305**－特集　土建国家ニッポン／ほか」　ロシナンテ社　1996年5月　700円

「**月刊むすぶNo.306**－特集　百姓になりたい／ほか」　1996年6月　700円

「**月刊むすぶNo.307**－特集　日本にひびく沖縄の声／ほか」　1996年7月　700円

「**あごらNo.217**－沖縄の女ヤマトを動かす／ほか」　BOC出版部　1996年4月　1177円

「**あごらNo.218**－彩の国の女たち／ほか」　1996年5月　1030円

「**あごらNo.219**－再び『お上』を考える／ほか」　1996年6月　810円

「**月刊家族124号**－特集　事実婚で『嫁』の立場は乗り越えられた？／ほか」　家族社　1996年6月　300円

「**月刊家族125号**－特集　親の死と向かいあう／ほか」　1996年7月　300円

「**パワーアップニュースVol.18**－『久米弘子さんインタビュー』夫婦別姓　選ぶ自由　選ばない自由　認める社会へ／ほか」　パワーアッププランニング　1996年6月　300円

「**女のからだからNo.130**－どうなっているの？優生保護法／ほか」　女のからだから'82優生保護法改悪阻止連絡会　1996年4月　300円

「**女のからだからNo.131**－堕胎罪・優生保護法なきあとの新しい法律案／ほか」　1996年5月　300円

「**女のからだからNo.132**－優生保護法改正、母体保護法に関する声明文／ほか」　1996年7月　300円

「**シネマジャーナルVol.37**－特集　第15回香港電影金像奨／ほか」　テス企画　1996年6月　800円

「**We 7月号**－特集　女が元気になるために／ほか」　Weの会　1996年7月　600円

「**ショワジールVol.46**－特集　低容量ピル、どう思う？／ほか」　色川奈緒　1996年6月　300円

「**HEARTあいNEWS No.11**－アンケート結果発表　パートナーの家事参加、子育てにおけるジェンダーほか」HEARTあいNEWS編集部　1996年6月　200円

「**屋台村通信第7号**－特集　夫婦別姓選択・私の意見／ほか」　屋台村通信　1996年5月　300円

「**トランタン新聞Vol.25**－特集　子育てサークル／ほか」　トランタンネットワーク新聞社　1996年5月　200円

「**トランタン新聞Vol.26**－'96乾杯　元気な女の夏だよ!!／ほか」　1996年6月　200円

「**イヴイヴVol.4**－特集　これからいい女／ほか」　トランタンネットワーク新聞社　1996年4月　300円

「**イヴイヴVol.5**－特集　女たちの『ネットワーク最前線』／ほか」　1996年6月　300円

「**ピーマン・インフォメーション5・6月号**－講演会情報　サークル一覧／ほか」　ピーマン・ネットワーク事務局　1996年6月　500円

「**Girls.Be Ambitious! 10**－女性差別撤廃条約って何？／ほか」　学生女性問題研究会連絡会　1995年12月　500円

「**ファイトバックVol.25**－私たちは性暴力を許さない！／ほか」　性暴力を許さない女の会　1996年4月　500円

「**アウロラ第2号**－特集　女性がもっと自由に自立して生きるために／ほか」　女性のためのカウンセリング講座卒業生交流会　1996年7月　300円

「**関西ネットワーカーズハンドブック**－サークル・勉強会情報／ほか」　関西シナジープロジェクト　1996年3月　1000円

「**女性史学第6号**－女性史とフェミニズム、日本考古学とジェンダー／ほか」　女性史総合研究会　1996年7月　1500円

連載　第57回

ミニコミの女たち

世界女性会議
「ネッ関ニュース」

世界女性会議ネットワーク関西

昨年９月に開かれた第４回世界女性北京会議には、190カ国から５万人の女性が集まりました。日本からも実に5000人の女性たちがＮＧＯフォーラムに参加したのは皆さんよくご存じの通りです。

この会議では、世界中の国々が女性差別を無くすために守られるべき指針として「行動綱領」がまとめられました。この行動綱領に掲げられている内容が、すべての国の、女性政策に活かされることを願わずにはいられません。我国でも今後政策に盛り込まれ、実行されるべき問題がいっぱいあります。

ところでもうご存じの方も多いと思いますが、世界女性会議の政府間会議期間中に日本政府とＮＧＯとの話し合いの場、「日本コーカス」が開かれ、政府とＮＧＯの間で意見交換がおこなわれました。女性国際会議では初めての事です。そこで、日本でも「政府と女性団体の相互の間で適当な距離を保ちつつ、ともに女性政策を考え実行していく事が重要である」という認識が一致しました。

コーカスの最終日の参加者によって、女性政策のための個人、グループ、団体間の持続的で緩やかなネットワークを目的として、北京ＪＡＣ（Japan Accountability Caucus）が結成されました。この「北京ＪＡＣ」のメンバーは、帰国するとすぐに活動をはじめ、中央政府の諸機関に「行動綱領」に沿った女性のための政策要求や、提言をしました。

このような流れを受けて関西でも、北京会議ＮＧＯフォーラムに参加した女性を中心に準備会がもたれ、96年３月「世界女性会議ネットワーク関西」が発足致しました。すでに大阪では、第３期行動計画「女と男のジャンププラン」見直しのための提言書を大阪府に提出しましたし、京都では京都市長選で各候補に公開質問状を送るというロビー活動を行ってまいりました。

世界女性会議
ネッ関ニュース
NO. 1
「世界女性会議ネットワーク関西」の発足にあたって

世界女性会議
関ニュース
NO. 2
権利から権力へ

「世界女性会議ネットワーク関西」は、女性のための政策をよりよくすることを目的に、個人やグループの相互の違いを尊重しながら連帯します。

様々な問題に直面している女性をサポートし合うためにも、情報の交換のためにも常に女性同士の緩やかなネットワークは必要です。そして今回の会議のキーワード「エンパワーメント」を実践していく、そんな「場」としても活用していただけたら幸いです。

このネットワークを支えるのが、その名も「ネッ関ニュース」です。どこで誰がどんな活動をしていて、どんな応援ができるのか、「ネッ関ニュース」を通してご一緒に考え活動していきませんか。

女性問題に関心ある方なら誰でも、どんなグループでも、このネットワークに参加できます。そして「ネッ関ニュース」にご投稿ください。

（文責　中西豊子）

年　５～６回刊行　　１部600円

「ネットワーク関西」の入会や「ネッ関ニュース」については、下記事務局までお問い合わせください。

事務局　〒540 大阪市中央区谷町１丁目７番４号
M.F天満橋ビル６F
オフィス・フィフティ内
TEL 06－945－5163　FAX 06－920－8167

―マイクロフィルム―

「婦人世界」全69リール
臨川書店　1996年8月　全巻587100円
明治末期から大正・昭和期にかけての「婦人世界」の創刊号から終わりまで

＝書　評＝

『寺院の売春婦』

ジョーガン・シャンカール著　鳥居千代香訳　三一書房　1800円

「神の、女のしもべ」を意味するデーヴァダーシーは、神と結婚するという建前で、寺院に奉納され、僧侶に身を捧げるインドの宗教売春婦のことである。

今は少し形を変え、幼くして奉納された少女たちは生理が始まると、「処女の花を折る儀式」と称して男の性の対象にさせられる。

訳者の鳥居さんは、早くから売春婦問題に関心を寄せていたということで、一貫してイスラム、ヒンズゥ圏の売春の背景にある女性の実体について報告し続けてきた。

この書も宗教を隠れみのにした、少女の性と生を、まるごと搾取する因習や伝統の根深さや、デーヴァダーシー崇拝の風土について報告しており、法律も無力だと言っている。

時代の変化とともに、神や僧侶から次第に王や領主、金持ちへと、支配者層の男性たちの売春婦となってきて、都市化近代化とともにどんどん商業地域に流れ込み、結果として売春婦の供給源になっていると指摘している

男性優位性の正当化と支配と抑制の縮図を見る思いである。デーヴァダーシーは、社会的には他の女性たちより高い地位を得ているとはいうものの、それはふれこみで儀式や祝宴で聖域にはいれる程度のことで、実際は奉納の儀式さえすめば、すぐ売春宿に連れて行かれるので、娘をもつ貧しい両親はお金を得たい一心で奉納するという。

貧困と無学のなかで、まるでモノ扱いのこうした女性たちの運命を思うと、ここにいる私はこの実態とどう向き合えばいいのか、考えさせられてしまう。

ついこの間まで私たちの国でも、軍「慰安婦」を強制連行して、その罪悪も処遇も反省もあいまいにしてきている事実がある。

女性に対するあらゆる種類の暴力に、毅然と異議申し立てをしていくことで、世界の女性たちと少しは結ばれるのかも知れない。

支配者、強者であり続ける男性と男性論理に改めて憤りを感じた一冊であった。

下村美恵子（足立区女性総合センター職員）

‖原稿募集‖

上記の書評欄への投稿をお待ちしています。女性の目で見直した鋭い批評や、視点を変えたユニークなものをお寄せください。400字詰原稿用紙に約2枚、900字前後です。掲載させて頂いた方には薄々謝、進呈致します。

「あなたの情報・私の情報」とコラム「わたしの出会った本」は、知って欲しい本、ご意見・情報交換等に御利用ください。400字以内でお願いします。但しこれらの欄は、薄々謝も差し上げられません。ご了承下さい。

尚、ご投稿は会員に限らせていただきます。

宛先は

〒602 京都市上京区下立売通西洞院西入
松香堂書店「ウイメンズ　ブックス係」
です。

次号の締切は　**1996年10月20日**。

たくさんのご投稿をお待ちしています。

※次号は**1996年11月26日**発行の予定です。

編集室から

☆暑い夏。60号記念の力作に並んで、新刊では、ハードロックのように過激な自伝や小説をたんのうしました。有名無名を問わず、道なき道を行く女の生き方は、なかなかにスリリング。男には味わえないだいご味というべきか。残暑の候、ご自愛のほど。

（やぎ　みね）

☆60号記念の今号は、お伝えしたいことが多くて詰め込んだため、少々読みづらくなったかもしれませんがお許し下さい。海外だよりは休みました。

（とよこ）

訂正とお詫び

59号 海外だより「バングラデシュの女性とパルダ」の筆者浜本幸子さんは、甲南女子大学教員となっておりましたが芦屋大学教員の間違いでした。訂正してお詫び申し上げます。